



2014 年からルワンダで支援している「和解のためのマイクロ・セービング(小口貯蓄)」プロジェクトは、貯蓄組合の活動を通して、ジェノサイドに加担した人たち(今は刑を終えて帰郷している)と、被害を受けた人たちとが関係性を修復し、和解と共存を目指す活動です。コロナ禍で農村部での組合活動も停滞していましたが、徐々に日常を取り戻しつつあります。今回は、その取り組みについてご紹介していこうと思います。

和解のためのマイクロ・セービング(小口貯蓄)プロジェクトの近況

和解のためのマイクロ・セービング・プロジェクトの概要について

マイクロ・セービング(小口貯蓄)とは、村落レベルで30人くらいのグループを組織し、メンバーが毎週1口~4口(一口の金額は70円前後)のを積み立てる取り組みです。その積立金からメンバーは融資を受けて小規模な商売を行い、利息をつけて積立金に返済したり、金融機関に組合の銀行口座を作って預金して利息を増やしたりします。一定期間(6か月~9か月くらい)がたった後に各メンバーはそれぞれが積み立てた口数に応じて配分を受けます。メンバーは積み立てた金額が1.5倍程度になって戻ってきます。農村部の貧困削減のための一つのアイデアなのです。

ARCは、現地カウンターパートである「ルワンダ・女性キリスト教徒労働者協会(ARTCF)」との協働により、ルワンダ南部州ニヤマガベ郡内の村落に新たに100団体のマイクロセービンググループ(小口貯蓄の組合)を設立しました。

この取り組みは、単なる貧困層のボトムアップのためだけではありません。ルワンダのジェノサイドという暴力を経験した社会の中で、生活向上のために協働を促し、その過程で少しずつ関係性を修復することを目指すものとして始まりました。

プロジェクトの参加者からの声



フォレストンさん(56)は貯蓄組合に参加して1年ほどです。参加した理由は生活を今より良くしたいからで、ARTCFのメンバーに誘われて参加しました。彼は貸付制度を利用して、牛を飼いたいと言っています。

1994年のジェノサイドのあと、彼はサバイバー(ジェノサイドの生存者)に訴えられました。そして10年間、刑務所に収監されていました。でもガチャチャ裁判(ジェノサイドの裁判の迅速化のために

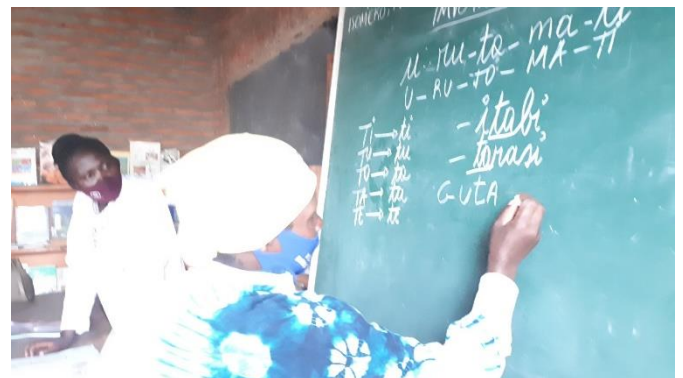
村々で行われた裁判制度)がはじまり、村人から無実の証言があったため、無罪を認められました。

それでもまわりの人びとの見る目は冷たかったそうです。

セービングの活動に参加するようになって、隣人たちとの関係は問題なくなったとのこと。このセービング活動は、地域の人たちの「統合(Unity)」を促していると言っていました。

さらなる取り組み

ARTCFではルワンダ全土で約3000の貯蓄組合を運営していますが、その組合を単位として、そのメンバーたちに成人識字教育を提供しています。



年配の方(とくに農村部)などは幼少時に十分な教育を受けることができなかったために、読み書きができない方もいるそうで、そのため識字教育をARTCFが行っています。セービング活動から融資を受けて小ビジネスをやろうとしても、読み書きができないとそれもむずかしいわけです。



もう一つ、日本からの支援ではじめたのが、「ヤギさんプロジェクト」です。これは、ある一つの貯蓄組合のメンバー30人に1頭ずつヤギを提供します。各メンバーはヤギを育てて子ヤギを生ませます。その

最初に生まれた子ヤギを、別の貯蓄組合のメンバーに提供し、その子ヤギを受けた人もさらに次の世代の子ヤギを生ませたら、他の組合のメンバーに子ヤギを提供する・・・という循環をつくる取り組みです（子ヤギを提供したメンバーは、それ以降に生まれた子ヤギは自分たちの家畜として育てることができます）。

今のところ、順調に増えているようです。この成果を検証し、さらに拡大をできればと思います。

貯蓄組合のメンバーは融資を受けて小ビジネスを行っています、その中に乳牛を育てている人もいます。生乳を売ること、その利益で融資の返済をして、その後は自分の収益とします。また牛の「ふん」もまた、たい肥として販売することができます。



ヤギではなくブタを飼育しているメンバーもいます。



ARC はこれからも、農村の人たちの「よりよい」生活を求める声を聴きながら、人々の「協働」をうながすことで、「和解」そして「共存」の空間をつくっていかねばと思っています。

人々がまた暴力に巻き込まれることがない社会づくりにご協力をお願いいたします。

ルワンダ子ども支援基金事業の追跡調査を行っています！

ARC のルワンダ子ども支援基金も開始から 20 年になります。20 年前はジェノサイドによる孤児たちへの奨学支援としてこの事業ははじまりました。ジェノサイドから 27 年がたち、そのころの子どもたちは社会に巣立っていき、ルワンダを支えていく青年世代になっています。そこで、かつて奨学支援を受けてきた子どもたちが今はどのように活躍しているかについて追跡調査を行い、このルワンダ子ども支援基金事業の検証も行っていきたいと思っています。追跡調査については ARC の現地リサーチャーがインタビューと記録(写真、動画)を行ってほしいと思います。この追跡調査のためには現地リサーチャーを雇い、調査のための諸経費(移動費、通信費など)が必要になります。これにはおよそ 700 ドル(83,000 円程度)が必要となり、「追跡調査サポート募金」を呼びかけさせていただこうと思います。サポートくださった方に、追跡調査の結果を写真や映像でご報告いたします。



現地リサーチャー イルデフォンス・ニヨンガナ

イルデフォンスは高校教師を経てギシンバ・メモリアル・センターの職員として、ARC とともに「ルワンダ子ども支援基金」のために活動していました。当時から、子ども達のことや教育のことを深く考えている人でした。その後センターの仕事を離れましたが、当時のセンターの子どもたちと交流も持っており、彼に ARC の現地リサーチャーを引き受けてもらうことといたしました。

ルワンダ子ども支援基金 **追跡調査サポート募金**への応援をよろしくお願いいたします♪

※ お近くの郵便局(ATM)から 郵便振替口座 00250-2-57833 (口座名義人「アフリカ平和再建委員会」)までお願いいたします！

アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-6-1 四谷サンハイツ 511 号室 Tel./FAX: 03-3351-0892

ホームページ <https://www.arc-japan.org> (お問い合わせはホームページからできます)

